# 大分県由布市庄内町方言

大分県方言区画図

**【大分県の方言区画】**大分県は、九州地方の東北部に位置して、北に福岡県、西に熊本県、南に宮崎県と接している。東部は瀬戸内海、南東部は愛媛県を対岸にして太平洋につながる豊後水道に面しているため、福岡県や熊本県のほか中国地方方言の影響を少なからず受けている。本県の属する豊日（ほうじつ）方言は、九州方言というより、むしろ中国方言や四国方言との共通点・類似点が目立つ方言である。金田一（1977）では、本県の大部分が東京式アクセントに分類され、福岡県北九州地域とともに東京式三種のうちの外輪方言、西部の日田地区はその変種であって、他の九州各県域が一型アクセントや京阪式アクセントの変種に分類されるのと大きく異なるとしている。奥村（1958）では、県西部を除く本県の大部分を、九州方言ではなく、中国・四国西部方言に含めて区画しているほどである。

県内においては、地形、気象等の自然地理、交通、行政等の人文地理的分類から、北に「豊前（ぶぜん）」、南に「豊後（ぶんご）」、西に「日田・玖珠（ひた・くす）」に区分することが多い。県庁所在地の大分市は、豊後地域に入る。この区分をもとに、東部と南部の海岸部（島嶼含む）を別の区分として加えたものが、松田（1991）の提唱する県内の「方言区画四区分」である。豊前地域と旧湯布院町・別府を加えた「北部方言」、残りの旧豊後地域を「南部方言」、日田・玖珠地域を「西部方言」、東部と南部の海岸部を「東部方言 A・B」とする。地形上、東側は海に開けているが、内陸部は山が多く陸路での交流が難しく、鉄道や道路が整備されるまでは海路による交通の便の方が良かった。方言においてもその影響を受けていると言えるだろう。

**【由布市庄内町方言について】**由布市は、旧大分郡の湯布院町（ゆふいんちょう）、庄内町（しょうないちょう）、挾間町（はさままち）が平成 17 年に合併して誕生した。庄内町は地理的にも大分県のほぼ中央に位置し、大分県の方言区分でもっとも広い範囲を占める南部方言内に位置し、大分方言の中でも、中間的な性格を持っている。

当該方言は名詞と助詞による連母音の融合が目立ち、「昔は」は「ムカシャー」、「此処に」は「コキー」、「これを」が「コリュー」になる。連母音の融合は動詞や形容詞の活用形にもある（「書いた」は「ケータ」、「赤くなる」は「アコーナル」）。連母音の音韻規則は ai＞eR、au･ao＞oR、ui･oi＞iR、ei＞iR、eo＞juR/joR（海岸部）、eu･ou･oo＞uR がある。また、「シヌル（死ぬ）」、「イヌル（辞去する）」など、古典語のナ行変格活用が残っている。また、「マクル（負ける）」などの二段型、「オクル（起きる）」などの三段型も活発である。しかし、このような方言特徴は、若い世代においては急激に希薄になっている。

調査地点、談話資料の対象地点

**【表記について】**伝統的な由布市庄内方言は、「せ」「ぜ」に対応して口蓋化した「シェ [ɕe] 」や「ジェ [dʑe] が現れ、現在でも高年層の話者であればこの音を聞くことができる。ただし、活用についてはこの音声的なバリエーションが問題になることはないため、一貫して「セ」「ゼ」と表記することにする。また、「つ」「づ」に対応して「トゥ [tu] 」、「ドゥ [du] 」の音もあるが、これらの音もそれぞれ「ツ」、「ズ」として表記する。

**【調査概要】**本稿の記述は、由布市庄内町で生育し調査時も居住する高年層話者(男性・昭和 10 年生まれ)への聞き取り調査をもとに行っている。用例は、大分県内の他地域方言の談話資料等（用例出典参照）からも引用した。引用元の記載のないものは、聞き取り調査の際に確認した例文である。調査地点、談話資料の対象地点を前頁の図に示す。

## 大分県由布市庄内町方言の活用表

**《動詞:多段一般型、多段特殊型、一段型、二段型》**

| | | 多段一般型　書く | 多段特殊型　死ぬ | 一段型　見る | 二段型　開ける |
|---|---|---|---|---|---|
| 終止類 | 断定非過去 | カク | シヌル | ミル | アクル |
| | 断定過去 | カイタ<br>ケータ | シンダ | ミタ | アケタ |
| | 命令 | カケ | シネ | ミヨ<br>ミレ | アケヨ |
| | 禁止 | カクナ | シヌルナ<br>シヌナ | ミンナ | アクンナ |
| | 意志 | カコー | シノー | ミロー | アキュー |
| | 推量 | カクジャロー<br>カクロー | シヌルジャロー<br>シヌジャロー<br>シヌルロー<br>シヌロー | ミルジャロー<br>ミルロー | アクルジャロー<br>アクルロー |
| | 否定意志・否定推量 | カカンジャロー<br>カキメー | シナンジャロー<br>シニメー | ミランジャロー<br>ミメー | アケンジャロー<br>アケメー |
| 接続類 | 連体非過去 | カク | シヌル | ミル | アクル |
| | 連体過去 | ケータ | シンダ | ミタ | アケタ |
| | 中止 | ケーチ | シンジ | ミチ | アケチ |
| | 仮定 | カキャー | シニャー<br>シヌリャー | ミリャー | アクリャー |
| 派生類 | 否定 | カカン | シナン | ミラン | アケン |
| | 丁寧 | カキマス | シニマス | ミマス | アケマス |
| | 使役 | カカスル | シナスル | ミラスル | アケラスル |
| | 受身 | カカルル | シナルル | ミラルル | アケラルル |
| | 可能 | カッキル<br>カカルル<br>カケル | シニキル<br>シナルル<br>シネルル | ミキル<br>ミラルル<br>ミレル<br>ミルル | アケキル<br>アケラルル<br>アケレル<br>アケルル |
| | 尊敬 | （該当形欠） | （該当形欠） | （該当形欠） | （該当形欠） |
| | 継続 | カキヨル<br>カイチョル<br>ケーチョル | シニヨル<br>シンジョル | ミヨル<br>ミチョル | アケヨル<br>アケチョル |
| | 希望 | カキテー | シニテー | ミテー | アケテー |
| | のだ | カクンジャ | シヌルンジャ | ミンノジャ | アケンノジャ |

《動詞：三段型、来る、する》

| | | 三段型　起きる | 来る | する |
|---|---|---|---|---|
| 終止類 | 断定非過去 | オクル | クル | スル |
| | 断定過去 | オケタ | キタ | シタ |
| | 命令 | オキー | キー<br>コイ<br>キヨ | シヨ |
| | 禁止 | オクンナ | クンナ | スンナ |
| | 意志 | オキュー | キュー | シュー<br>シユー |
| | 推量 | オクルジャロー<br>オクルロー | クルジャロー<br>クルロー | スッジャロー<br>スルジャロー<br>スルロー |
| | 否定意志・<br>否定推量 | オケンジャロー<br>オケメー | コンジャロー<br>キメー | センジャロー<br>シメー |
| 接続関係 | 連体非過去 | オクル | クル | スル |
| | 連体過去 | オケタ | キタ | シタ |
| | 中止 | オケチ | キチ | シチー |
| | 仮定 | オクリャー | クリャー | スリャー |
| 派生類 | 否定 | オケン | コン | セン |
| | 丁寧 | オキマス | キマス | シマス |
| | 使役 | オキラスル | キラスル | サスル |
| | 受身 | オキラルル | キラルル | サルル |
| | 可能 | オケキル<br>オケルル<br>オケラルル | キキル<br>コラルル<br>コレル | シキル<br>サルル |
| | 尊敬 | （該当形　欠） | （該当形　欠） | （該当形　欠） |
| | 継続 | オケヨル<br>オケチョル | キヨル<br>キチョル | シヨル<br>シチョル |
| | 希望 | オケテー | キテー | シテー |
| | のだ | オクルンジャ | クルンジャ | スルンジャ |

**多段型動詞の基幹音便形**

| 語幹末子音 | 語例 | | 活用形（過去形） | 作り方 |
|---|---|---|---|---|
| k | 書く | kak·u | カイ-タ<br>ケー-タ | k を i にする。さらに ai＞eR など連母音の音韻規則（注）を任意に適用（以下の*も同様）。「行く」ik·u は k を Q（促音）にして「イッ-タ」。 |
| g | 漕ぐ | kog·u | コイ-ダ | g を i にする*。-タが-ダになる。 |
| s | 出す | das·u | デー-タ | s を i にする*。 |
| t/c | 立つ | tac·u | タッ-タ | t/c を Q（促音）にする。 |
| n | 死ぬ | sin·u | シン-ダ | n を N（撥音）にする。-タが-ダになる。 |
| b | 飛ぶ | tob·u | トン-ダ | b を N（撥音）にする。-タが-ダになる。 |
| m | 飲む | nom·u | ヌー-ダ | m を ø（子音なし）にする*。-タが-ダになる。 |
| r | 切る | kir·u | キッ-タ | r を Q（促音）にする。 |
| w/ø | 買う | ka(w)·u | コー-タ | w を ø（子音なし）にする*。 |

（注）本文【由布市庄内町方言について】を参照。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

| | | 赤い | 静か（だ） | 学生［ガクセー］（だ） |
|---|---|---|---|---|
| 終止類 | 断定非過去 | アケー | シズカジャ | 学生ジャ |
| | 断定過去 | アコーカッタ<br>アカカッタ | シズカジャッタ | 学生ジャッタ |
| | 推量 | アケーダロー<br>アコカロー | シズカジャロー | 学生ジャロー |
| 接続類 | 連体非過去 | アケー | シズカン | 学生ン |
| | 連体過去 | アコーカッタ | △シズカジャッタ | 学生ジャッタ |
| | 中止 | アコージ | シズカジ | 学生ジ |
| | 仮定 | アコケリャ<br>△アカカリャ | シズカナリャ | 学生ナリャ |
| 派生類 | 否定 | アコーネー<br>アコネー | シズカジャネー | 学生ジャネー |
| | なる | アコーナル | シズカニナル | 学生ニナル |
| | 丁寧 | アカイデス | シズカジャ | 学生デス |
| | のだ | アケーンジャ | △シズカナンジャ | 学生ナンジャ |

## 1. 動詞の活用の特徴

### (1)活用型と語類の対応

規則的な活用型の主なものとして、基幹多段型(以下「多段型」)、基幹一段型（同「一段型」)、基幹二段型（同「二段型」）があり、基幹三段型（同「三段型」）がある。多段型は、所属動詞が多い基本型のほかに、限られた活用形で特別な形を持つ特殊型がある。おおよそ、多段一般型にはa類のうち「書く」・「居る」類が属し、多段特殊型には「死ぬ」類、すなわち古典語のナ変動詞が対応する。多段特殊型の所属語彙は「シヌル（死ぬ)」と「イヌル（去ぬ)」の2語のみである。また、一段型には「見る」類（古典語の上一段動詞）と、「開ける」（古典語の下二段動詞）類のうち基幹が1拍の動詞、二段型には「開ける」類のうち基幹が2拍以上の動詞、三段型には「起きる」類（古典語の上二段動詞）が所属する。

多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ・オの5形、および音便形がある。接辞と融合してア段拗音となることもある。「カク（書く)」の場合、カカ-ン(kak·a-N)、カキ-ヨル（kak·i-joru)、カク（kak·u)、カケ（kak·e)、カコ-ー（kak·o-R)、カイ-タ（kai-ta)、ケー-タ（keR-ta)、カキャー（kak·jaR）など。また、語幹末子音には、k（カ行)、g（ガ行)、s（サ行)、t（タ行)、b（バ行)、m（マ行)、r（ラ行)、w（ワ行）がある。語例は表「多段型動詞の基幹音便形」を参照。

多段型特殊型も、基本形に準じてア・イ・ウ・エ・オ段の5形、および、音便形の基幹を持つが、シヌ-ル（sin·u-ru)、シヌ-リャー（sin·u-rjaR）と、二段型動詞のように「ウ段形＋r 行接辞」の形が混じる。語幹末子音には、n（ナ行）のみ。

一段型の基幹はイ段とエ段がある。まず「ミル（見る)」を例にすると、断定非過去形ミ-ル（mi-ru)、仮定形ミ-リャー（mi-rjaR)、受身形・可能形ミ-ラルル（mi-raruru)、可能形ミ-ルル（mi-ruru）のほか、命令形ミ-レ（mi-re)、意志形ミ-ロー（mi-roR)、否定形ミ-ラン（mi-raN)、使役形ミ-ラスル（mi-rasuru）でも、ラ行で始まる接辞が付き、多段型のr語幹動詞に対応した形となる。また、「ネル（寝る)」は、断定非過去形ネ-ル（ne-ru)、仮定形ネ-リャー（ne-rjaR)、受身形・可能形ネ-ラルル（ne-raruru)、可能形ネ-ルル（ne-ruru）のほか、命令形ネ-レ（ne-re)、意志形ネ-ロー（ne-roR)、否定形ネ-ラン（ne-raN)、使役形ネ-ラスル（ne-rasuru）であり、r 語幹化形が用いられる。共通語よりもr語幹化が進んでいる。

二段型の基幹にはウ段とエ段がある。「アクル（開ける）」の場合、アク-ル（ak·u-ru）、アケ-タ（ak·e-ta）など。使役形はアケラスル（ak·e-rasuru）とr語幹化した形を持つ。二段型の存在は、九州の一部や和歌山県と同様に、古典語の「二段活用」の残存と言える。

三段型の基幹には、イ段・ウ段・エ段がある。「オクル（起きる）」の場合、オク-ル（ok·u-ru）、オキ-ラスル（ok·i-rasuru）、オケ-ラルル（ok·e-raruru）、オケ-タ（ok·e-ta）、オケ-ン（ok·e-N）など。

・ソゲン　コツ　ユータテン　ロクジ　オケタ　モンジャキー　オス　ナッタニェー。（そんなこと言ったって、6時に起きたもんだから遅くなったのよ。）（豊後大野市緒方町）

・テンキガ　イーキ　シゴトー　デクル。（天気が良いから、仕事ができる。）

三段型の活用は、「オクル（起きる）」、「デクル（できる）」、「オツル（落ちる）」のような古典語の上二段活用語が、「マクル（負ける）」「ウクル（受ける）」「タスクル（助ける）」のような古典語の下二段活用語に合流する方向への変化が不完全に起こっている状態と言える。受身形・可能形、過去形は、県北部ではそれぞれオキ-ラルル（ok·i-raruru）、オキ-タ（ok·i-ta）となり、県南部のほうが三段化（下一段化）が進んでいる。若い世代では二段型も三段型も使わず、共通語と同様の一段型活用が用いられる。

不規則な活用をする動詞に「クル（来る）」と「スル（為る）」がある。ともに一段型に近い活用をするが、「クル」は、キ-タ（k·i-ta）、ク-ル（k·u-ru）コ-ン（k·o-N）などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」の三段に、「する」はサ-スル（s·a-suru）、シ-タ（s·i-ta）、ス-ル（s·u-ru）、セ-ン（s·e-N）などのように、基幹が「サ」「シ」「ス」「セ」の四段にわたる。「クル」は、命令形キー（k·i-R）、意志形キュー（kjuR＜k·i-juR）、受身形キ-ラルル（k·i-raruru）、使役形キ-ラスル（k·i-rasuru）が特徴的である。一段型化の兆候にも見えるが、断定非過去形や否定形などの活用形には揺れが見られない。

「スル」では、断定非過去形ス-ル（s·u-ru）、仮定形スリャー（s·u-rjaR）でr語幹動詞に対応する形があるものの、命令形ショ（s·i-jo）、意志形シュー・シユー（sjuR＜s·i-juR）、など一段型に準じた形が優勢である。

**（2）各活用形の特徴**

**〈断定非過去形〉**

断定非過去形と連体非過去形は同形である。二段型・三段型動詞は「アクル」「オクル」など「ウ段形＋ル」となる。多段特殊型動詞（ナ変動詞）にも「ウ段形＋ル」の「シヌル」があり、多段一般型に対応するウ段形「シヌ」と併用されている。動詞「イヌル（辞去する＝帰る）」も同様であるが、若い世代はそれぞれ「シヌ」「カエル」を用いて「シヌル」「イヌル」を使わなくなっている。

・アー　モー　イヌルデ、サヨナラ。（ああ、もう帰るよ、さようなら。）（豊後大野市緒方町）

**〈断定過去形〉**

断定過去形と連体過去形の形のちがいはない。多段一般・特殊型では基幹音便形に「タ」が後接した形である。「カイタ」が「ケータ」など、音便化後に連母音の融合を起こす形がある。「カッタ」が「コータ」になり、音便形が異なる。一段型では基幹（＝語幹）に、二段・三段型ではエ段形に、「来る」「する」ではイ段形に「タ」を後接した形となる。

**〈命令形〉**

一段型動詞「見る」の命令形は「ミレ」「ミヨ」であり、r語幹化した形式と「基幹＋ヨ」の2系列の形式がある。三段型動詞「起きる」の命令形は「オキー」で、[okejo]の[ejo]が融合を起こして[i:]になったもの。

「来る」の命令形は、「キー」「コイ」「キヨ」である。「キー」は[koi]の[oi]が融合を起こして[i:]になったもの。

・コッチ　キー。（こっちへ来い。）

「する」の命令形は、「シヨ」である。

・ハヨ　ヒトマトメニ　シヨ。（早くひとまとめにしろ。）

他に「～しないか」に当たる、後掲の否定形に助詞カを付した「～ンカ」という形式が多用される。強い命令のときは、この形式が使われる。

・ハヨ　テガミ　カカンカ。（早く手紙を書かないか。）

・ハヨ　センカ。（早くしないか。）

**〈禁止形〉**

禁止形は、断定非過去形に「ナ」を後続した形で表される。「乗る」「見る」「来る」「する」のように、断定非過去形語尾がルであるものは「ル」が撥音化し、「ノンナ」「ミンナ」「クンナ」「スンナ」という形になる。「死ぬ」の場合、「シヌルナ」と「シヌナ」がある。ただし、断定非過去形で「シヌ」は通常使用されない。

・ジロジロ　ミンナ。(じろじろ見るな。)

・アブネー　ウンテン　スンナ。(危ない運転をするな。)

**〈意志形〉**

「見る」は「ミロー」とr語幹化した形式になっている。「出る」「寝る」なども同様に「デロー」「ネロー」となるが、語幹が2音節以上の二段型・三段型動詞は「起きよう」が「オキュー」、「あげよう」が「アギュー」と、基幹エ段またはイ段形と意志接辞-juR（-jouに由来）が融合して[-Cju:]になる。「来る」「する」も同様に「キュー」「シュー」となる。

・ンナラ　ヒオ　アギューカナー。(それじゃ灯をあげようかなあ。)（豊後大野市緒方町）

・イネカリュー　シュー。(稲刈りをしよう。)

**〈推量形〉**

推量を表す形式として「ジャロー」を用いる。「ジャロー」は断定形に後接する。ただし、「らむ」由来と思われる「ロー」を後接する言い方もある。「ロー」のほうが親しみを感じる言い方（目下に対して使う場合が多い)。

・ジキニ　クルジャロー。(すぐに来るだろう。)

・エー　コン　ホーカブリ　ヨー　ニアウロー。(ええ、このほうかぶり良く似合うでしょ。)（豊後大野市緒方町）

**〈否定意志・否定推量形〉**

否定意志と否定推量形を表す形として、「否定形＋ジャロー」とともに、「メー」を使う形がある。多段一般・特殊型ではイ段形、一段型では基幹、二段・三段型ではエ段形、「来る」「する」ではイ段形にメーが付く。

**〈連体非過去形〉**

上述のとおり、断定非過去形と同形である。

**〈連体過去形〉**

上述のとおり、断定過去形と同形である。

**〈中止形〉**

中止形は「チ」によって表される。「チ」は多段一般・特殊型動詞では基幹音便形、一段型動詞では基幹、二段・三段型動詞ではエ段形、「来る」「する」ではイ段形「キ」「シ」に後接する。

・ニュースオ　ミチ　オモータ。(ニュースを見て思った。)

・コキー　キチ　コリュー　モッチョッチクリー。(ここに来て、これを持ってくれ。)

・ハー　チョイト　ハヨー　オケチ　カッセナー。(はい、ちょっと早く起きて加勢してよ。)（竹田市久住町白丹）

三段型動詞「起きる」では、「オケチ」だけでなく「オキテ」も使用する。

**〈仮定形〉**

仮定形には多段一般型の基幹エ段形に「バ」、一・二・三段型や「来る」「する」の基幹に「レバ」が後接して融合した「カキャー」、「ミリャー」、「クリャー」、「スリャー」などが用いられる。多段特殊型動詞「死ぬ」の場合、多段一般型に準じる「シニャー」の他、二段型に準じる「シヌリャー」もある。この他、断定非過去形に「ト」が後接した形、中止形「～チ」に「カラ」が後接した形もある。後件が要求表現等働きかけの強い文になる場合の予測的条件文には、「～チカラ」が用いられる。

・ワリーコト　スリャー　オニカラ　ツレチカルルゾ。(悪いことをしたら、鬼から連れていかれるぞ。)

・ユーガタ　キャクガ　クルト　ネンノガ　オソナル。(夕方客が来ると、寝るのが遅くなる。)

・チョーナイカイチョーガ　キチカラ　コリュー　ワタシックリー。(町内会長が来たら、これを渡してくれ。)

**〈否定形〉**

多段型動詞はア段形に、二段・三段型動詞はエ段形に、「来る」は「コ」に、「する」は「セ」に、「ン」が付く。「見る」「出る」「寝る」などの一段・二段型で1音節語幹のものは、「ミラン」「デラン」「ネラン」と基幹にランが付いた、r語幹化した形になる。

・アンシワ　チカゴロ　ミランナー。(あの人は最近見ないなあ。)

否定過去形は、いろいろの形がある。先に挙げた

多段型動詞のア段など、否定のンに前接するのと同じ形にに、「ザッタ」「ダッタ」「ンジャッタ」「ンヤッタ」「ンカッタ」を後接させる。おおむね挙げた順に古いと思われるが、「ザッタ」と「ダッタ」との新旧は不明である。「来る」で代表させて形式を列挙する。

・コザッタ（来なかった）
・コダッタ（同）
・コンジャッタ（同）
・コンヤッタ（同）
・コンカッタ（同）

「コンカッタ」は「来ない」の方言形「コン」と共通語「来なかった」の後半部「かった」の複合形と考えられる。過去形以外では、以下のようになる。

・コン（来ない）
・コントキャー（来ない時は）
・コンジ（来ないで）
・キメー（来るまい）

「見る」「寝る」の場合、「ミザッタ」「ミダッタ」や「ネザッタ」「ネダッタ」となるが、「ンジャッタ」「ンヤッタ」「ンカッタ」に前接する場合は「ミラン」「デラン」となり、若い世代は「ンヤッタ」「ンカッタ」を使う。

**〈丁寧形〉**

多段一般・特殊型動詞はイ段形に、一段型動詞は基幹に、二段型動詞はエ段形に、三段型動詞はイ段形に、「来る」は「キ」に、「する」は「シ」に「マス」が付く。ただし、丁寧形自体があまり使われない。

**〈使役形〉**

多段一般・特殊型動詞にはア段形に「スル」が、一段型動詞は基幹、二段型動詞はエ段形、三段型動詞はイ段形に「ラスル」が、「来る」は「キ」に「ラスル」が、「する」は「サ」に「スル」が付く。使役形自体は「する」と同様の活用型をとる。

・ムスコニ　オヤン　メンドー　ミラスル。（息子に親の面倒を見させる。）

**〈受身形〉**

多段一般・特殊型のア段形に「レル」、一段型の基幹、二段型のエ段、三段型のイ段に「ラルル」を後接させる。「来る」は「キラルル」、「する」は「サルル」が用いられる。「（ラ）レル」は二段型動詞に準じる活用をもつ。

・モンク　イーニ　キラレタ。（文句言いに来られた。）
・ムカシャー　ジョーキューセーニ　ワヤクオサレタ。（昔は上級生にいじわるをされた。）

**〈可能形〉**

能力可能と状況可能の区別がある。

| | | 能力可能 | 状況可能（内的条件可能と外的条件可能） |
|---|---|---|---|
| 多段型<br>書く | 肯定 | カキキル | カケルル<br>カケル<br>カカルル |
| | 否定 | カキキラン | カケレン<br>カケン<br>カカレン |
| 一段型<br>見る | 肯定 | ミキル | ミルル<br>ミレル<br>ミラルル |
| | 否定 | ミキラン | ミレン<br>ミラレン |

能力可能、状況可能の区別は、「動作主体の身体内か外か」、「ある程度永続的なことか一時的か」という基準によりなされる。能力可能は「身体内」かつ「永続的」、状況可能は「身体外」かつ「一時的」である。明確とは言いきれないが状況可能の下位区分として、さらに2つに区分の傾向がある。「身体内」で「一時的」な内的条件可能は多段型動詞で「エ段形＋ルル」と「エ段形＋ル」（カケルル／カケル）、一・二・三段型動詞で「基幹＋ルル」（ミルル、アケルル、オケルル）の形で使われやすい。一方、「身体外」で「一時的」な外的条件可能は多段型動詞で「ア段形＋ルル」（カカルル）、一・二・三段型動詞で「～ラルル」（ミラルル、アケラルル、オケラルル）が使われやすい。とは言え、能力可能の「キル」以外の意味区分はそれほど明確ではない。

・シニンノ　カオワ　ミキラン。（死者の顔を見ることができない。）〈主体内・永続的〉
・メノ　チョーシガ　イーキ　ナンボデン　テレビガ　{ミレル／ミラルル}。（目の調子がいいから、いくらでもテレビが見られる。）〈主体内・一時的〉
・コンヤワ　ハヨー　カエルキー　タイガドラ

マオ　ミラルル。（早く帰るから、大河ドラマを見ることができる。）〈主体外・一時的〉

内的条件可能の場合、動詞連体非過去形に「コトガ　デクル／デケン」を続ける形も用られる。

・テワ　チョーシガ　イーキ　ナンボデン　{カケル／カクコトガ　デクル}　デー。（手は調子がいいから、いくらでも書くことができるよ。）〈主体内・一時的〉

他にも、「(シ) ダサン（できる機会がないのでできない)」、「(シ) オーセン（能力や時間不足でできない)」、「(シ) コナサン（能力や時間不足でできない)」などの形で不可能を表すことがある。

「キル」は多段型 r 語幹、「〜ルル」は二段型と同様に活用する。

**〈尊敬形〉**

生産的な尊敬形式を持たない。敬語の使用自体が活発ではない。

南部方言の一部の地域で「〜ンス」「〜ナハル」が使用されるが、命令形と禁止形に偏る。

・ワシーモ　ツレテ　イカンセーノ。（わたしもつれてお行きなさいな。）（一尺屋）

**〈継続形〉**

継続形のうち動作進行を表す形は多段型イ段形、一段型基幹、二段・三段型エ段形に「ヨル」、完了（結果継続）を表す形は多段型基幹音便形、一段型基幹、二段・三段型エ段形に「チョル」「ジョル」のついた形である。ただし動詞によっては「チョル」「ジョル」が動作進行を表すこともある。これらの形は多段型 r 語幹動詞と同様に活用する。

・イマー　ネンガジョー　カキヨルンジャ。（今、年賀状を書いているのだ。）

・アンシャー　イチニチジュー　ジンジョー　{カキヨル／カイチョル} ンジャ。（あの人は一日中、字を書いているのだ。）

**〈希望形〉**

希望形には多段型イ段形、一段型基幹、二段・三段型エ段形に「タイ」を後接した形をとる。「タイ」は形容詞型の活用をする。非過去形は「テー」になる。

・ミンナジ　エンカイ　シテーナー。（みんなで宴会したいなあ。）

**〈のだ形〉**

「のだ」に相当する形式として「ンジャ」がある。当方言では「のだ」形における文末の「ジャ」の使用が、後続の要素によって 2 つのパターンにわけられる。「ノー」「ネー」などの終助詞が後接する場合や原因理由節、逆接節内では、「ジャ」が介在して「カクンジャノー」「カクンジャナー」「カクンジャキー」「カクンジャケド（ガ)」などの形をとるが、「デ」「ヨ」「ド」などの終助詞や伝聞の「チ」がつく場合は「ジャ」を用いず、「カクンデ」「カクンヨ」「カクンド」「カクンチ」のように準体助詞「ン」に終助詞等が直接つく形をとる。

しかし、否定接辞「ン」に続く場合は同音連続が避けられ、準体助詞「ン」ではなく「ノ」を使って「カカンノジャ」の形をとる。大分県内でも、北部の方言では「ノンジャ」になるため、「カカンノンジャ」となる。

## 2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

**【形容詞】**

形容詞の活用は基本的に 1 つの活用型であるが、中止形・否定形・なる形や過去形では、語幹末母音が a、i の場合に交替語幹を用いた形がある。語幹末が u、o の場合は交替がない。語幹末が e の語は存在しない。

| 形容詞 | 語幹末母音 | 交替後 | 例 |
|---|---|---|---|
| アカイ（赤い） | a | o | アコーナル |
| オーキー（大きい）<br>ハガイー（歯がゆい） | i | ju | オーキューナル<br>ハガユーナル |
| カルイ（軽い）<br>ヌクイ（温い） | u | u | カルーナル<br>ヌクーナル |
| オモイ（重い）<br>フトイ（太い） | o | o | オモーナル<br>フトーナル |

語幹 1 拍の「イー（良い)」と「ナイ（無い)」は活用が変則的である。

「イー（良い)」の不規則的な活用は以下の通り。

断定非過去・連体非過去　イー
断定過去・連体過去　ヨカッタ
否定　ユーネー
なる　ユーナル／ヨーナル

「イー」は交替語幹が「ユ」または「ヨ」となり、

「ナイ」は交替語幹が「ネ」で、「ネーナッタ（なくなった）」、「ネージャロー／ナカロー（ないだろう）」、「ネーカッタ／ナカッタ（なかった）」であり変則的である。なお「濃い」「酸い」などは、当方言では語幹が2拍の形容詞「コユイ」「スイー」であるため、活用は一般の形容詞と同じである。

**〈断定非過去形〉**

「アケー」のように、共通語「アカイ」から連母音が融合した形をとる。下記表に、語幹末a以外の語についても記す。断定と連体の場合の形のちがいはない。

なお、「明るい」も「アケー」になる。

・マダ　アケーキノー。（まだ明るいからなあ。）（玖珠郡九重町）

| 形容詞 | 連母音 | 融合後 | 例 |
|---|---|---|---|
| アカイ（赤い） | ai | eR | アケー |
| オーキー（大きい）<br>ハガイー（歯がゆい） | iR | iR | オーキー<br>ハガイー |
| カルイ（軽い）<br>ヌクイ（温い） | ui | iR | カリー<br>ヌキー |
| フトイ（太い・大きい）<br>オソイ（遅い） | oi | iR<br>eR | フチー・フテー<br>オシー・オセー |

**〈断定過去形〉**

形容詞の断定過去形・連体過去形は交替語幹（交替のない語の場合は語幹。以下同様）の長音形に動詞的な接辞「カッ」、さらに「タ」が後接した形をとる。語幹に「カッタ」が付いた形もある。断定と連体の場合の形のちがいはない。

交替語幹「アコ」は、「アコーナル」の場合は/akaku/⇒/akau/⇒/akoR/のような連母音の融合から発生したと考えられる。また、連母音の生じない「～カッタ」に交替母音が使われる原因として、「シロカッタ（白かった）」、「アオカッタ（青かった）」「クロカッタ（黒かった）」等の色彩形容詞の大勢を占める/—okatta/からの類推も考えられる。

**〈推量形〉**

形容詞の推量形には、「アコカロー」「ヨカロー」のように交替語幹に動詞的な接辞「カロー」が後接した形を併用している。また、断定形に「ジャロー」が後接した形は使われない。また、「アケーダロー」などと共通語的な「ダロー」がついた形も、若い世代に使われる。

・キョーン　ユーヒモ　アコカローナー。（今日の夕日も赤いだろうなあ。）

・ヤッパー　ドッチカーチュートー　ヤサシーホーガ　ヨカロージャネーカー。（やっぱりどっちかというと、やさしいほうがよかろうよ。）（竹田市長湯町）

**〈連体非過去形〉**

上述のとおり、断定非過去形と同形である。

・アケー　クツ　ヘータ。（赤い靴を履いた。）

**〈連体過去形〉**

上述のとおり、断定過去形と同形である。

・アコーカッタ　ジャンバーガ　チャイロニナッタ。（赤かったジャンバーが茶色になった。）

**〈中止形〉**

中止形は交替語幹の長音形に「ジ」を後接した形をとる。

・コン　リンガー　アコージ　ツヤツヤ　シチョルナー。（このリンゴは赤くてつやつやしているなあ。）

・ホオレンソガ　アンター　コトシャ　ヤスージカラナー　ソレガアンタ　イチバン　モー　コマーッチョンノジャワーン。（ほうれん草が今年は安くてなあ、それがいちばん、もう困っているんだよ。）（大分市戸次）

**〈仮定形〉**

仮定形には交替語幹に「ケレ-バ」の融合形「ケリャー」が付く形、「カレ-バ」の融合形「カリャ（ー）」が付く形がある。

・ミガ　アコケリャ　トッテン　イード。（実が赤ければ、取ってもいいぞ。）

・ジキガ　ワルカリャ　モー　ヒトツモ　ハエリャ　シェン。（時季が悪ければもう全くはえはしない。）（佐伯市宇目町：現佐伯市宇目町）

ほかに「ヤスカリャ（安ければ）」「ヨカリャ（良ければ）」など、「ケリャ」と併用されている。

**〈否定形〉**

否定形は、交替語幹、またはその長音形に「ナイ」の融合・エ長音化（ai＞eR）した「ネー」を後接した形をとる。

・コトシン　トマター　アンマリ　{アコーネ

ー／アコネー｝ゾ。（今年のトマトはあまり赤くないぞ。）

・モー　フターリデ　オモシローネーキ　モーシェンカ。（もう２人［だけ］でおもしろくないから、もうやめようか。）（大分市一尺屋）

・アンマイ　ユーネーゴタンノジャワーン。（あんまりよくないようなんだよ。）（大分市戸次）

〈なる形〉

「なる」形および副詞形には、中止形や否定形と同様に、交替語幹の長音形を用いる。

・カワガ　｛アコーナルト／アコーナリャ｝　ミガ　ジュクシチョル。（皮が赤くなると、実が熟している。）

・コンキンジョワ　チカゴロワ　ヤクバガ　デキルキ　イマカラ　ユーナルジャロー。（この近所はもうすぐ市役所ができるから、今から良くなるだろう。）

〈丁寧形〉

共通語と同様「デス」が用いられ、融合形は用いられない。

・シンゴーガ　アカイデス。（信号が赤いです。）

〈のだ形〉

形容詞述語の「のだ」形は、動詞述語と同じく、準体助詞「ン」による「ンジャ」を用いて「アケーンジャ」の形をとる。

・ココジ　トルル　トマター　トテン　アケーンジャ。（ここで採れるトマトは、とても赤いのだ。）

動詞と同様、「ノー」「ネー」などの終助詞が後接する場合や原因理由節、逆接節内では、「ジャ」が介在して「アケーンジャノー」「アケーンジャナー」「アケーンジャキー」「アケーンジャケド（ガ）」などの形をとるが、「デ」「ヨ」「ド」などの終助詞や伝聞の「チ」がつく場合は「ジャ」を用いず、「アケーンデ」「アケーンヨ」「アケーンド」「アケーンチ」のように準体助詞「ン」に終助詞等が直接つく形をとる。

【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞述語では、「シズカ（ジャ）」「シズカジャッタ」など、名詞述語の「学生（ジャ）」「学生ジャッタ」に対応する活用型（形容名詞「シズカ」が名詞述語における名詞に準じている活用型）と、「シズカン（ジャ）」などの「シズカナ」部分が名詞述語の名詞に対応する活用型とがある。ただし、後者はどの活用形でこの形があるのか確認が不十分なので表には含めなかった。

この品詞に属する語には、形容詞的な活用をとる語（「横着（だ）」「賑やか（だ）」「気の毒（だ）」）があり、それぞれ断定非過去形・連体非過去形は、「オーチャキー」「ニギヤケー」「キノドキー（話し手が「気まずい」「恥ずかしくなる」意味）」となる。

〈断定非過去形〉

形容名詞・名詞に直接終助詞「ジャ」が付く。上述の通り、形容名詞述語では、「～ナ＋ジャ」＞「～ンジャ」の形もある。若い世代では、「ジャ」より「ヤ」が使われている。

・コノヘンワ　シズカジャ。（この辺は静かだ。）

・マンガー　マダ　ガクセージャ。（孫はまだ学生だ。）

〈断定過去形〉

「シズカジャッタ」「ガクセージャッタ」のように、断定過去形・連体過去形は、動詞的な接辞「ジャッ」に過去辞「タ」を後接する形をとる。

〈推量形〉

「シズカジャロー」「ガクセージャロー」のように、推量形は、形容名詞・名詞に動詞的な接辞「ジャロー」が付く。

・ショーナイン　オクンホーワ　シズカジャロー。（庄内町の奥の方は静かだろう。）

〈連体非過去形〉

連体非過去形はそれぞれ「シズカン」、名詞＋「ン」である。

・シズカン　トコロジ　ベンキョーシテー。（静かなところで勉強したい。）

・アンシャー　ガクセーン　トキャー　コクタイニ　デタ。（あの人は学生のときに、国定に出た。）

形容名詞述語の「ン」は「ナ」、名詞述語の「ン」は名詞の連体格と同じように助詞「ノ」を用いているが、母音脱落してどちらも「ン」である。

〈連体過去形〉

上述のとおり、断定過去形と同形である。

〈中止形〉

「シズカジ」「ガクセージ」など、形容名詞・名

詞に「ジ」を後接した形をとる。この方言では、いわゆる接続助詞の「デ」が「ジ」になるため、共通語と同じ非動詞的な接辞が使われていることがわかる。

・ムカシャー　シズカジ　イートコロジャッタ。（昔は静かでいい所だった。）

〈仮定形〉

語幹に「ナレ-バ」の融合形「ナリャ（ー）」が付く形である。

・ヨルガ　シズカナリャ　ユックリ　ヤスメルニナー。（夜が静かなら、ぐっすり眠れるのに。）

〈否定形〉

形容名詞述語では「シズカジャネー」が、名詞述語では「学生ジャネー」のように、「ジャネー」を後接する形が用いられる。アクセントは「ジャネ」まで高い。

〈なる形〉

共通語と同じく、形容名詞・名詞に「ニナル」を後接した形をとる。

〈丁寧形〉

名詞述語では名詞に「デス」を後接した形をとる。形容名詞には「デス」を後接する形があるが、高年層ではこの形を使うとよそよそしい感じがするため、積極的な使用が控えられている。

・オヨロコビデー　ケッコーデスネー。（お喜びで結構ですねえ。）（中津市山国町）

・ウチノ　イチバンシタノ　マゴワ　ガクセーデス。（うちの一番下の孫は学生です。）

〈のだ形〉

形容名詞述語には「ノダ」にあたる「ンジャ」が付かない。名詞述語の場合、動詞述語や形容詞述語と同じく、準体助詞「ン」による「ンジャ」を用い、「学生ナ」に「ンジャ」が後接する。「ンジャ」で言い切る場合、気づきや質問に答える場合など、強調の意味合いがある。

・イチバン　テツダイニ　クンノワ　ガクセーナンジャ。（一番手伝いに来るのは、学生なのだ。）

「デ」「ヨ」「ド」などの終助詞や伝聞の「チ」などがつく場合は「ジャ」を用いず、「ガクセーナンデ」「ガクセーナンヨ」「ガクセーナンド」「ガクセーナンチ」のように準体助詞「ン」に終助詞類が直接続く形をとる。

総じて名詞述語・形容名詞述語の場合、のだ形をとりにくい。

・アンシャー　トシトッチョルゴト　アルケンド　マダ　ガクセーデ。（あの人は歳をとっているように見えるけれど、まだ学生なのだ。）

・ココヘンワ　ムカシカラ　シズカジャッタ。（この辺は昔から静かなのだ。）

**用例出典**

豊後大野市緒方町：松田正義・糸井寛一（1993）『方言生活30年の変容』上巻　桜楓社

佐伯市宇目町：同上

大分市一尺屋：同上

玖珠郡九重町：松田正義・日高貢一郎(1993)『方言生活30年の変容』下巻　桜楓社

竹田市長湯町・竹田市久住町白丹：同上

大分市戸次：同上

中津市山国町：同上

**参考文献**

糸井寛一（1964）「九重町方言の動詞の語形表」『大分大学学芸学部研究紀要』2-4号

糸井寛一（1983）「大分県の方言」国書刊行会『講座方言学９―九州地方の方言―』

奥村三雄（1958）「方言の区画」柴田武・加藤正信・徳川宗賢編『日本の言語学 第6巻 方言』大修館書店

大西拓一郎（1996）「大分県豊後高田市大力方言の動詞の活用」平山輝男博士米寿記念会編『日本語研究諸領域の視点　上巻』明治書院

金田一春彦（1977）「方言のアクセントの違いの現状」大野晋・柴田武編『岩波講座 日本語 11 方言』岩波書店

早田輝洋（1982）「パラダイムにおける方言と共通語―大分県臼杵市方言の形容詞の場合―」東京外国語大学『アジア・アフリカ文法研究』10号

松田正義（1991）「大分県方言の区画」大分県総務部総務課編『大分県史　方言篇』第一章第二節「方言区画」大分県

（松田美香）